

平成29年度

学校いじめ防止基本方針

川崎市立長沢中学校

川崎市立長沢中学校いじめ防止基本方針

学校教育目標

1. 自分を見つめよう
2. 心身を鍛えよう
3. 規律を守り、責任を果たそう
4. 創造的な精神をみがこう

めざす生徒像

自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現する生徒

めざす教職員像

教師としての感性・愛情・知識・技術を常に探求し、信頼関係の中で日々の教育活動に努める教職員

学校経営の基本的考え方

生徒・保護者との信頼関係のもと、生徒が自ら学び、主体的に判断する学校教育の推進

中期 経 営 目 標	確かな学力が身につく 学習活動の推進	意欲的な諸活動の推進	豊かな心づくりの推進	安全で安心できる学校づくり と地域・保護者との連携
経 営 目 標 の 重 点	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容の定着を図り、生徒一人ひとりに確かな学力を身につけさせる ○生徒にとって魅力がありわかりやすい授業への創意・工夫に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人ひとりの個性を尊重し、自己理解・他者理解に資する活動を推進する。 ○生徒が意欲的・主体的に諸活動に取り組める支援に努める 	<ul style="list-style-type: none"> ○互いを認め、思いやる心をはぐくむ ○創造性と表現力のある生徒の育成に努める ○命、こころの教育を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> ○全ての生徒が、心身共に健康で、安心して生活できる教育環境づくりを推進する ○地域・保護者との信頼関係に基づいた学校づくりを行う
具 体 的 な 取 組 み	<ul style="list-style-type: none"> ○発表・聞く態度・意見交換などのルールを再確認し定着させる指導を推進する ○キャリア教育の視点から指導内容および評価の再設定をおこなう ○教育機器の利用から指導方法の改善に務める ○学習のねらいを明確にしたユニバーサルデザイン授業を展開する ○学習室運用を含めた支援教育の校内体制の更なる充実と学習指導のあり方を研究する ○学習指導要領の改定に関する研鑽と評価・評定の見直しを推進する ○言語活動の充実を意識した教育課程の見直しを行ない実践する 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人ひとりの個性を生かし、学級内での役割と存在感ある生徒の育成する ○系統化した体験活動を通して、まとめから発信へと進める力の育成を図る ○学級活動を通して、生徒同士の関係性の改善を図り、協調性を培う ○自分の気持ちを言葉や行動に移せることができるコミュニケーション能力を身につけさせることを意識した諸活動の推進をする 	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な視点から、豊かな心の育成を図ると共にいじめのない、命を大切に思う心を養う ○生徒の思いや悩みに対し寄り添える教職員集団をめざす ○自己肯定感を高めさせ、自分に自信をもって生きる力を養う ○キャリアノートの活用を通して課題解決を図ろうとする意欲の定着に努める ○教育相談活動を推進し、相談方法の工夫改善を進める 	<ul style="list-style-type: none"> ○清掃活動、掲示物の充実のための手立てを共通認識し効果的な指導につなげる ○破損箇所の早期発見とその対応を迅速に行なう ○防災・震災訓練を通して、自分を守るすが身につくとともに判断できる安全教育を推進する ○学校・学年・学級たより等による積極的な情報発信を行なう ○職員交流、合同研修、授業交流などを通して、小中連携事業の充実と更なる推進をはかる ○中学校給食開始に向けてソフト、ハード両面での具体的準備を行い、生徒保護者への周知を図る

2 いじめの定義

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む。)であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいいます。

3 学校が実施する取組

(1) いじめの未然防止の取組

いじめを未然防止するには、いじめが発生しにくい学校の風土づくりが基本となります。教職員は児童生徒の理解を深め、信頼関係を築くとともに、一人ひとりを大切にしたい授業を実践するように努めます。また、あらゆる教育活動を通じて、他人を思いやる心や正義を重んじる心などの豊かな人間性をはぐくみます。

① 学校体制を確立し、環境を整備します

いじめは絶対に許されないという共通認識に立ち、全教職員で児童生徒を見守っていくためには、いじめの予兆や悩みがある児童生徒を見逃さないしくみづくり、問題解決のための組織づくりをするとともに、相談活動がしやすい環境づくりや教職員の計画的な研修の実施など、学校体制を確立します。

② 児童生徒の心を受け止められる感性を磨き、教職員としての人間性を高めます

教職員自身が児童生徒から信頼されるよう自己研鑽し、人間性を高めるよう努力することは教職員としての基本です。児童生徒を一人の人間として尊重し、児童生徒の気持ちを理解し、児童生徒と感動を共有することができるか、自分の心が一人ひとりの児童生徒に向かって開いているか、絶えず自問します。

③ 児童生徒一人ひとりが生きる教育活動と効果的な学習活動を実践します

学校生活の大半を占める授業を「学ぶ楽しさ」が味わえる充実した時間にするこことで、児童生徒は前向きに学校生活を送ることができるようになります。また、学校行事や体験活動などを工夫し、充実を図ることで他者と深く関わる経験を重ね、他者への思いやりや対人スキルを身につけさせます。

④ 児童生徒の自浄力を育てます

児童生徒自身に「自浄力」を身につけさせることは、未然防止のなかでもっとも重要です。児童生徒の自主的、主体的な活動が、「いじめをやめさせたいと思う児童生徒」を育て、いじめを抑制します。自校に誇りをもたせ「自分たちの学校ではいじめは許されない」という気運を高めていきます。

(2) いじめの早期発見

いじめの発見が遅れると、いじめの内容がエスカレートするばかりでなく、関わっている児童生徒が増加して関係が複雑になり、解決が困難になります。「いじめは見ようとしなければ見えない」と言われます。深刻な事態を招かないためにも児童生徒のわずかな変化を手がかりに、早期発見に全力を尽くします。

① 日常のきめ細やかな観察をします

普段の授業における児童生徒の顔色や姿勢、学習態度などは、児童生徒の理解を深める大切な情報です。また、授業以外のさまざまな場面での言葉づかいや行動、表情、視線、声をかけたときの反応を観察します。

② 相談体制の整備します

学校における教育相談体制を確立し、児童生徒や保護者に啓発することによって、いじめられている児童生徒や周りの児童生徒が相談しやすい環境をつくります。

③ 定期的なアンケート・チェックシートの実施します

定期的な学校生活アンケートや教職員用のチェックシート等を活用し、児童生徒の状態や指導法を客観的に把握し、いじめの早期発見につなげていきます。

(3) 校内いじめ防止対策会議の設置

① 校内いじめ防止対策会議の構成

いじめの未然防止、いじめの早期発見、いじめ認知後の対応や措置を迅速かつ実効的に行うため、校内いじめ防止対策会議を設置します。

② 校内いじめ防止対策会議の役割

校内いじめ防止対策会議（以下、「対策会議」という）は、いじめの防止等の中核となる組織として、校務分掌に位置づけ、いじめに関する情報の収集、「学校基本方針」に基づく取組の実施や具体的な年間計画の作成・実行・検証・修正等を行います。

(4) いじめへの対処

いじめの対応を担任一人だけで行うと、解決を遅らせ事態を悪化させる恐れがある。いじめを認知した、またはその疑いがあった時点で全教職員に周知し、多方面からの確・迅速に対応する必要がある。さらに保護者の対応についても誠意を尽くし、問題解決のために信頼関係と協力体制を確立する。

① 校内いじめ対策ケース会議の立ち上げ

いじめの疑いに関わる情報があつたときには、「対策会議」に学級担任や学年教職員などを加えて、校内いじめ対策ケース会議を立ち上げ、いじめの情報の迅速な共有、関係のある児童生徒への事実関係の聴取、指導や支援の体制・対応方針の決定と保護者との連携を組織的に実施します。

② いじめられた児童生徒への支援

- もっとも信頼関係ができている教職員が対応し、「最後まで絶対に守る」という意思を伝えます。
- 児童生徒の意向を汲みながら、学校生活の具体的なプラン(登下校の方法など)を立てます。
- 心のケアや登下校・休み時間の見守りなど、安全で安心できる環境づくりに努めます。

③ いじめた児童生徒への指導

- 事態の深刻さを認識させ、いかなる事情があつても、いじめは絶対に許されないことを伝えます。
- 安易な謝罪で済ませず、相手の心の痛みを理解させ、自らの生き方をじっくり考えさせます。
- いじめに至った要因や背景を踏まえ、立ち直りに向けた相談活動や指導を継続的に行います。

④ 周囲の児童生徒への指導

- はやしたてたり、見て見ぬふりをしたりするのは、いじているのと同じだということを理解させます。
- いじめを防ぐことができなかつたことを見つめなおさせ、再発を防ぐための具体的な手立てを指導します。
- 必要に応じて学級、学年さらに学校全体に広げて再発防止へ向けた指導を行います。

⑤ 保護者への対応

- 事実を伝え、指導方針と具体策を提示して再発防止への協力を要請します。
- 解決するまで学校が主体性を発揮し、解決後も定期的に児童生徒の学校や家庭での様子を保護者と情報交換し、経過観察を行います。

4 平成29年度 いじめ防止対策組織・役割分担

【校内いじめ防止対策会議の構成】（校務分掌に位置付ける）

〈主任会〉

校長、教頭、総括教諭、教務主任、学年主任

生徒指導担当、特別支援コーディネーター、養護教諭、

〈その他〉

人権尊重教育担当、部活動顧問長、道徳教育推進担当

スクールカウンセラー（小・高は要請による派遣）、

スクールソーシャルワーカー（要請による派遣）

【いじめ防止対策の企画・運営】

- ・学校運営（学校評価）におけるいじめ防止に関する目標の設定・検証・・・（生徒指導担当）
- ・いじめ防止対策年間指導計画の作成・・・・・・・・・・・・・・・・（生徒指導担当）
- ・いじめ防止指導研修会の企画、運営・・・・・・・・・・・・・・・・（人権尊重教育担当）
- ・いじめ問題に関する資料の管理・・・・・・・・・・・・・・・・（教務主任）
- ・道徳教育との連携・・・・・・・・・・・・・・・・（道徳教育推進担当）
- ・学校いじめ防止基本方針の見直し・・・・・・・・・・・・・・・・（主任会）

【教育相談】

- ・教育相談のねらい・年間計画の作成・・・・・・・・・・・・・・・・（生徒指導担当）
 - 1年・・・・・・・・（1学年主任）
 - 2年・・・・・・・・（2学年主任）
 - 3年・・・・・・・・（3学年主任）
- ・相談室窓口、相談室の管理、運営・・・・・・・・・・・・・・・・（スクールカウンセラー）
- ・スクールカウンセラーとの連携・・・・・・・・・・・・・・・・（養護教諭）

【生徒・保護者・地域との連携】

- ・生徒会本部・規律委員会との連携・・・・・・・・・・・・・・・・（特別活動指導部）
- ・PTA校外委員会との連携・・・・・・・・・・・・・・・・（教務主任）
- ・地域教育会議との連携・・・・・・・・・・・・・・・・（教頭）

【関係機関との連携】

- ・警察との連携・・・・・・・・・・・・・・・・（生徒指導担当）
- ・家庭センター（児童相談所）との連携・・・・・・・・・・・・・・・・（生徒指導担当）

5 平成29年度 いじめ防止等対策年間計画

月	活 動 内 容 (校内いじめ防止対策会議・児童生徒指導部会・職員会議等)
4	<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針・重点目標の確認 ・構成員の確認・役割分担 ・年間指導計画確認 ・いじめに関する報告書の作成について ・かわさき共生*共育プログラムの取組について
5	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・いじめ防止標語の募集(生徒会本部・生活委員会)・ポスター制作 ・第1回学校生活アンケート実施に向けた内容検討・実施 ・いじめの未然防止、早期発見・早期対応方法についての研修
6	<p>【第1回児童生徒指導点検強化月間】の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(具体的な内容→年間2回の教育相談・主任会での情報交換) ・全校集会にて校長・生徒指導担当から講話 ・第1回学校生活アンケートの実施 ・携帯・スマートフォン教室実施 ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認
7	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケート集約について→学校生活アンケート結果を受けての対応について ・教育相談の実施 ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・夏休み期間中の対応確認
8	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・いじめ防止対策に関する研修会
9	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・前期の反省とまとめと後期の具体的な取組の確認
10	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認・文化祭での全校道徳
11	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・第2回学校生活アンケート実施に向けた内容検討・実施
12	<p>【第2回児童生徒指導点検強化月間】の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回学校生活アンケート実施 ・学校生活アンケート集計について→学校生活アンケート結果を受けての対応について ・教育相談の実施 ・全校集会にて校長・生徒指導担当から講話 ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・道徳の授業にて人権教育とつなげながら指導
1	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認
2	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・今年度の反省→学校評価への反映
3	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・来年度に向けての基本方針の見直し

本校のいじめ防止に向けた取組

生徒の自主的な取組

[自主的な企画・運営]

- ・生徒集会において、生徒会本部役員や各種委員会の担当からの投げかけ
- ・自主的なあいさつ運動や始業準備や決まり遵守の声かけ
- ・学年集会でのリーダーを中心とした、生活の見直しと啓発活動

[交流活動の活性化]

- ・体育祭色別縦割りの交流と部活動による親学級での活動
- ・茶道部、吹奏楽部による高齢者食事会（ながら会）の交流活動
- ・委員会活動（イングリッシュガーデン花植え運動、声かけ運動）
- ・小中高連携活動（たぬきフェスティバルでの交流）
- ・町内会・子ども会など地域行事での交流活動

[啓発活動]

- ・文化祭での生徒会役員による「全校道徳」の実施
- ・いじめ防止ポスターの作成、いじめ撲滅のキャンペーンの実施
- ・年間テーマの設定、掲示
- ・学校だより、学年便り、学級だよりによる投げかけ

保護者の取組（PTA 活動）

- ・広報誌での呼びかけ
- ・学区の見回り活動、調査
- ・地域マップの作成

地域住民の取組

- ・自治会等による見守り活動
- ・発見による早急な対応と学校への通報の協力